【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第２区分
【発行日】平成22年5月13日(2010.5.13)

【公表番号】特表2006-504786(P2006-504786A)
【公表日】平成18年2月9日(2006.2.9)
【年通号数】公開・登録公報2006-006
【出願番号】特願2004-550127(P2004-550127)
【国際特許分類】
Ｃ０７Ｋ　7/64　(2006.01)
Ｃ０７Ｋ　1/16　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｃ０７Ｋ　7/64
Ｃ０７Ｋ　1/16

【誤訳訂正書】
【提出日】平成22年3月23日(2010.3.23)
【誤訳訂正１】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００１２
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００１２】
本発明の更なる実施態様は、精製の分離度及び／または生産性を改善すべくアルミナまたはシリカゲルの固定相を用いる順相クロマトグラフィー系でアミンまたはアミノ酸移動相改質剤を使用することによるペプチドまたはリポペプチドの精製方法であって、精製はリポペプチドの精製である。前記方法において、リポペプチドはカスポファンギン、ミカファンギン、アニドゥラファンギン、シロファンギン及びダプトマイシンの発酵産物前駆体から選択される。前記方法において、リポペプチドはニューモカンジンB_0である。前記方法において、移動相改質剤はアミンである。前記方法において、アミン移動相改質剤はメチルアミン、エチルアミン、ジイソプロピルアミン、ジエチルアミン、ジメチルアミン、エチルメチルアミン、トリエチルアミン、プロピルアミン、アニリン及びジメチルアニリンからなる群から選択される。前記方法において、移動相改質剤はアミノ酸またはアミノ酸エステルである。前記方法において、アミノ酸またはアミノ酸エステル移動相改質剤はＬ－アミノ酸、Ｄ－アミノ酸、Ｌ－アミノ酸エステル及びＤ－アミノ酸エステルからなる群から選択される。前記方法において、固定相はシリカゲルである。前記方法において、アミノ酸またはアミノ酸エステル移動相改質剤はＬ－プロリン、Ｄ－プロリン、トランス－４－ヒドロキシ－Ｌ－プロリン、トランス－４－ヒドロキシ－Ｄ－プロリン、グリシン、Ｌ－スレオニン、Ｄ－スレオニン、Ｌ－リシン、Ｄ－リシン、Ｌ－メチオニン、Ｄ－メチオニン、Ｄ－バリン及びＬ－バリン、並びに上記したＬ－及びＤ－アミノ酸のエステルから選択される。前記方法において、移動相は水、メタノール及び酢酸エチルからなる溶媒系である。前記方法において、アミノ酸移動相改質剤はＬ－プロリン及びＤ－プロリンから選択される。
【誤訳訂正２】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００２２
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００２２】
高い分離度は、カラムをメタノールで洗浄することにより逆転した。この洗浄は、強く

結合した不純物を除去する目的で２０ラン毎に実施した。幾つかの追加ランの後に改善した精製結果が戻った。更なる研究で、この効果は、プロリンがカラム供給物（粗ニューモカンジンＢ$_0$）中に存在し、それが各注入でカラムに吸着したためであったことが分かった。この現象は、効果のレベルをコントロールして実施例に記載されているように分離度及び生産性を改善させるように移動相にプロリン及び関連添加物を添加することにより一般化された。